

長野県産シダ植物の新産地 (8)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some pteridophytes in Nagano Prefecture (8)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

アオホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes latealatum・大桑村のぞきど 500 m 2013 年 9 月 29 日
NAC167732

北向きのスギ林下のやや湿った岩にアオホラゴケが群生しているのを見つけた。根茎に毛を密生している点でハイホラゴケに似ているが、やや小型で偽脈が見られることから容易に区別することができる。暖地性のシダで県南部に分布し、天竜村、阿南町付近ではときおり見かけるが、木曽谷側での記録は旧山口村以外では無かった (長野県植物誌資料集作成委員会 2005)。

ハイホラゴケ (コケシノブ科)

Crepidomanes birmanicum・阿南町月が島 350 m 2013 年 9 月 21 日
NAC168260

溪流を歩いていたとき、小さい滝の脇の流れに洗われている岩場にハイホラゴケが群生しているのを見つけた。孢子囊群はラッパ状で根茎に毛が密生する暖地性のシダで、県内で見えることは少ないが、近くでは天竜村のほかに飯田市南信濃 (上野・上野 2013)、根羽村 (上野・上野 2011) で観察している。

フモトシダ (コバノイシカグマ科)

Microlepia marginata・白馬村親海湿原 760 m 2013 年 8 月 14 日
NAC167737

親海湿原の遊歩道を歩いていたとき、数株のフモトシダが生育しているのを見つけた。暖地性でやや乾いた林床に比較的普通に見かけるシダで、県内では県南部の天竜村、泰阜村及び軽井沢でしか記録がなかった (清水 1997、長野県植物誌資料集作成委員会 2005、倉田・中池 1979)。株としてはだいぶ大きくなって孢子囊群を付けているものの、個体

数は数株と少なく、おそらく近年進出してきたものと思われる。

オオバノイノモトソウ (イノモトソウ科)

Pteris cretica・松本市中心 580 m 2013 年 7 月 8 日
NAC167735

松本市の市街地を歩いていたとき、水路の側溝脇の石の間から、オオバノイノモトソウの幼株が発生しているのを見つけた。小さいときはイノモトソウにも似ているが、葉脈が片縁に達するので、容易に区別が可能である。比較的山中ではよく見かけるシダ植物で、やや攪乱された環境でもよく生育しているのを見かける。しかしながら、県中部や木曽谷側で見かけることはほとんどない。最近、塩尻市でも見つけた (上野・上野 2013)。

アイチャセンシダ (チャセンシダ科)

Asplenium trichomanes × *A. tripteropus* 写真 1・天竜村倉の平 300 m 2013 年 11 月 2 日
NAC168258

信州シダの会例会での観察中、道路沿いの法面の苔むした岩の間からイヌチャセンシダのようなものが生育しているのを見つけた。しかしながら、軸を観察してみると、中央から下部の中軸から葉柄にかけて軸の裏側に翼が見当たらず、その一方、上部では軸の裏側に翼が出ていたため、イヌチャセンシダとチャセンシダの交雑種のアイチャセンシダとした。葉身は 30cm 程度と大きく、羽片が丸みを帯びて耳がはっきりしないなど、イヌチャセンシダによく似ていた。アイチャセンシダは両親の生育する地域でごく稀に生じるが、県内での記録はこれまでに無かった (長野県植物誌資料集作成委員会 2005)。天竜村ではときおりイヌチャセンシダを見かけることがある。長野県新産。

* 上野勝典・上野由貴枝 〒399-0011 松本市寿北 2-2-38

イブキシダ (ヒメシダ科)

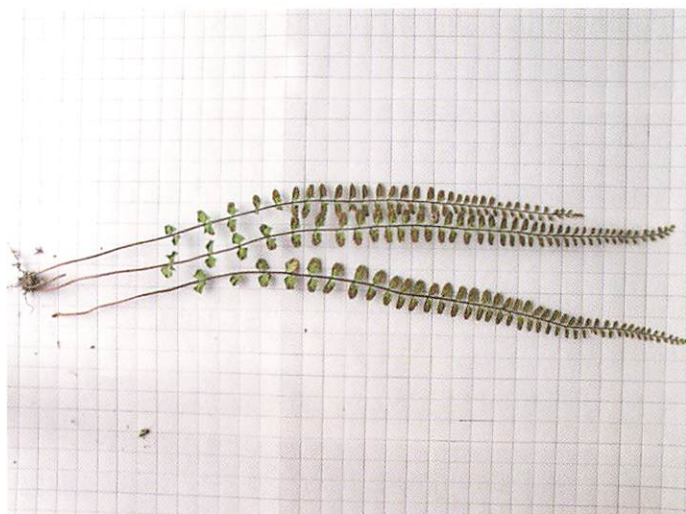


写真1 アイチャセンシダ (格子間隔は 1cm)
天竜村倉の平 300 m 2013 年 9 月 22 日



写真2 イブキシダ 天竜村倉の平
2013 年 9 月 22 日



写真3 ナチクジャク 飯田市南信濃
2013 年 11 月 3 日

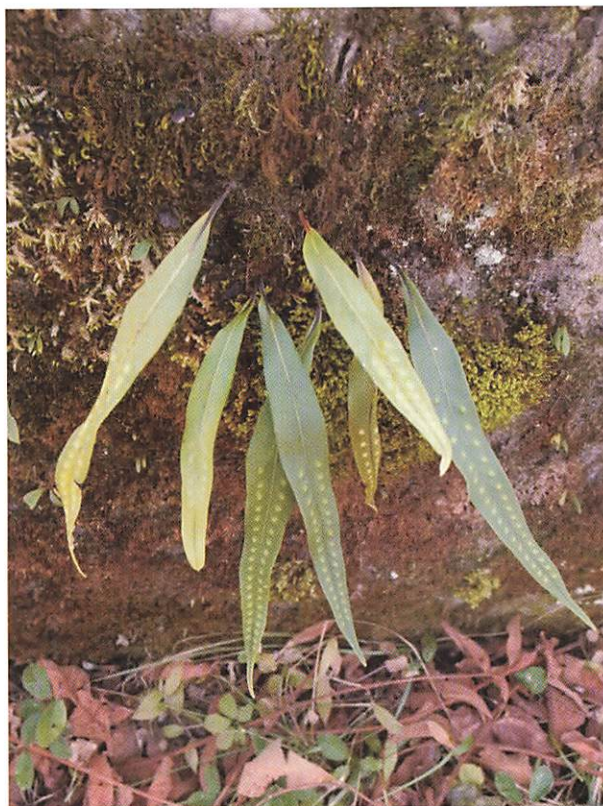


写真4 イナノキシノブ 飯田市南信濃
2013 年 11 月 3 日

Thelypteris esquirolii var. *glabrata* 写真 2

・天竜村倉の平 300 m 2013 年 9 月 22 日
NAC168261

道路脇の法面下部に、数株のイブキシダが生育しているのを見つけた。葉身は、下部で幅が狭くなり、下の数対では耳上に著しく縮小する。また、羽軸と中軸の接点には通気口のこぶ状突起があるなどの特徴がある。長野県新産ではあるが、近くでは愛知県豊根村でも観察したことがある。イブキシダは本州中部地方以西に分布するとされているが(岩槻 1992)、千葉県や神奈川県ではほとんど見ることができない(千葉県史料研究財団 2003、神奈川県植物調査会 2001)。

ナチクジャク (オシダ科)

Dryopteris decipiens var. *decipiens* 写真 3

・飯田市座光寺 500 m 2013 年 8 月 24 日
NAC168259

スギ林のやや急峻な北向き斜面に、一株だけナチクジャクが生育しているのを見つけた。葉は 2 枚でており、そのうち 1 枚に胞子囊群を付けていた。ナチクジャクはマルバベニシダによく似ているが、羽片は切れこまないのので容易に区別できる。近くでは以前愛知県南部で観察したことがある。長野県では「日本のシダ植物図鑑 8」(倉田・中池 1997)に天竜村で堤久氏によって採られた記載がある。ナチクジャクは関東地方南部以西に分布するとされているが(岩槻 1992)、千葉県や神奈川県ではほとんど見ることができない(千葉県史料研究財団 2003、神奈川県植物調査会 2001)。

イナノキシノブ (ウラボシ科)

Lepisorus oligolepidus × *L. thunbergianus* 写真 4

・飯田市南信濃 430 m 2013 年 11 月 3 日
NAC168264 大塚孝一

信州シダの会例会での観察中、日当たりの悪い苔むしたコンクリート壁に数株の大きなウロコノキシノブにしては、細長い植物が生育しているのを見つけた。周囲にはウロコノキシノブやノキシノブが比較的多く生育していた。葉身は中央よりも下側でもっとも太くなり、片縁はあまり波打ってはいないが、裏側に黒っぽいリン片を多く付けており、明ら

かにウロコノキシノブの特徴を有している。これらの特徴からウロコノキシノブとノキシノブの交雑種のイナノキシノブとした。本種は稀に両者の生育している地域で見られるものの、片親のウロコノキシノブが非常に少ないため、見かけることはほとんどない(竹重 2003)。なお、本種の観察において大塚孝一氏も同行されており、標本は大塚氏が採集したものである。

謝辞

シダ植物の同定ならびに本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所 & ハーバリウム (NAC) の大塚孝一様に心より感謝の意を表します。

引用文献

- 岩槻邦男 (1992) 日本の野生植物 シダ. 平凡社.
神奈川県植物調査会 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
倉田悟・中池敏之 (1979) 日本のシダ植物図鑑 1. 東大出版会.
倉田悟・中池敏之 (1997) 日本のシダ植物図鑑 8. 東大出版会.
清水建美監修 (1997) 長野県植物誌. 信濃毎日新聞社.
竹重聡 (2003) ウロコノキシノブの自生地環境分布に応じた形状特性. 長野県植物研究会誌 36: 85-92.
千葉県史料研究財団 (2003) 千葉県の自然誌. 千葉日報社.
長野県植物誌資料集作成委員会 (2005) CD-ROM 長野県植物誌資料集 (普及版).
上野勝典・上野由貴枝 (2011) 長野県産シダ植物の新産地 (6). 長野県植物研究会誌 44: 37-40.
上野勝典・上野由貴枝 (2013) 長野県産シダ植物の新産地 (7). 長野県植物研究会誌 46: 119-123.